

原子力安全規制に関して発言メモ（第二回会合用）

井川 陽次郎

Don't swap horses while crossing a stream.

河を渡っている最中に馬を乗り換えるな、という諺があるくらいだから、原発事故の完全収束がほど遠い段階で原子力の規制組織を大幅改変することは大変なリスクを伴う。

明確な理念、目標を定め、慎重に、ステップを踏んで進めることが求められる。

そこで、理念、目標について以下に。

◎ 規制制度について

- ・ 規制のための規制ではいけない。安全向上に資する規制。
- ・ 欧米の規制制度、IAEAの安全基準を重視。
- ・ 法的に規制行政の独立を担保。責任分担、役割分担を明記。（専門家と政治、自治体と政府など）
- ・ 監査機能の整備。

但し、当面は最小限の改革。抜本改革を中長期的に目指す。

◎ 人材について

- ・ 現状で有能な専門人材を集めるのは至難。
- ・ 規制当局の業務は困難、心理的な重圧大、昼夜問わず。地方勤務多。
- ・ 検査担当者の定期異動が必要。
- ・ 最新知見が必須。不断の研鑽。国際動向も把握すべき。
- ・ 説明能力、広報の向上が必要。
- ・ 待遇面での優遇が必須。cf. 米国の検査官は給与が1割プラス。
- ・ 長期、複数回の海外研修。将来のキャリア展開も視野に。
- ・ 人事は安全庁で独立に実施。

◎ 予算について

- ・ 安全研究の拡充、一定予算の確保。環境省予算とは独立に。
- ・ 米国のような独立会計方式も視野に。

以上